

企業委託実習（インターンシップ）の取り組み状況

沖縄ポリテクカレッジ 学務課
(沖縄職業能力開発大学校)

1. はじめに

平成15年度から、学生（専門課程、応用課程）に生産現場で直接実務を体験する機会を与え、企業等における最新の知識、技能・技術の動向を把握させるとともに、学生の職業観を養うことを目的とする企業委託実習（インターンシップ）について、今年度（平成16年度）の取り組み状況を報告する。

2. 担当委員会

機構本部の具体的なインターンシップの目的は、次のとおりである。

- (1) 学生の習得した知識、技能・技術を生産現場において総合的に活用することにより、日ごろの教育訓練の内容を再確認する。
- (2) 企業が求める人材要件を確認し、必要となる能力の習得意欲を喚起する。
- (3) 職業生活への理解を深め、就職活動等に際して職業生活の参考とする。

本インターンシップは、訓練カリキュラムの一環として取り組むように指示されているため、学生委員会で取り組む方向も検討した。しかし、インターンシップを就業体験・就職活動ともとらえ、これからの学生の就職と結びつけることを考え就職担当者会議（就職対策委員会）で取り組むこととした。

3. インターンシップ実施方針

3.1 対象者

専門課程および応用課程の2年生全員を対象とした。

なお、インターンシップに参加できない学生は、施設内において各科で訓練することとした。

3.2 実施場所（委託先企業）

原則として、沖縄本島の通学範囲内に所在し、生産等の現場を有している民間企業等とした。ただし、適当な委託先企業が見つからない場合は、離島および学生出身先の他府県の企業でもよいこととした。

3.3 実施時期

原則として、7月末の集中実習の時期（7月23日（金）～8月4日（木））としている。

3.4 実施期間

原則として、9日間（72H）とした。ただし、受け入れ企業の状況により5日以上でもよいこととした。また、2カ所の受け入れ企業を組み合わせてもよいこととした。

4. 委託先情報・開拓と委託先選定について

4.1 委託先企業情報

- (1) 沖縄学生職業相談室からインターンシップ受

け入れ協力事業所リスト（168社）を入手した。

- (2) 昨年度、インターンシップを引き受けた企業に今年度の引き受けについてのアンケートを郵送し、今年度の引き受け企業リストを作成した。
- (3) 修了生の就職先企業リストを作成した。
- (4) 学生の希望によるインターンシップおよび就職希望企業の企業リストを作成した。

4.2 学生の委託先調整と決定

- (1) 各科の学生に上記4.1の委託先企業情報（受託可能企業リスト）を提示し、希望アンケートを実施した。その結果に基づき各科で希望先企業一覧リストを作成した。
- (2) 就職担当学生会議において、各科の希望先企業一覧表を持ち寄り、委託先企業と折衝する担当科を決めた。
 - ① ある企業に1科だけの学生が希望している場合は、その科で企業と折衝・設定し、契約書等を締結した。
 - ② 同じ企業に複数科（2科以上）の学生が希望している場合は、学務課で折衝・調整した。

4.3 取り組み日程

- (1) 5月31日まで
 - ① 企業への受け入れ希望アンケートを実施・回収し、そのまとめを行った。
 - ② 沖縄学生職業相談室からインターンシップ受け入れ協力事業所リストを入手した。
 - ③ 学生の就職先企業リストを作成した。
- (2) 6月4日まで
学生に対して、インターンシップ希望先アンケートを各科で行った。
- (3) 6月7日～6月25日まで
インターンシップ先と次の説明・折衝・調整を行い、受託企業への依頼と委託契約書締結等を行った。
 - ・企業実習委託契約までの手続き
 - ・企業実習生の受け入れについて（お願い）
 - ・企業実習生受け入れに係る調査票
 - ・委託契約書
 - ・学生出席管理簿

・学生評価表

- (4) 7月2日まで
インターンシップ計画書を各科から学務課へ提出した。
- (5) 7月23日まで
インターンシップへ向けてのオリエンテーションを各科で実施した。
- (6) 7月23日（金）～8月4日（水）まで
 - ①インターンシップの実施を行った。
 - ②各科教員による受託企業の巡回指導（1回）を行った。
- (7) 8月12日まで
インターンシップ受託企業へお礼状を発送した。
- (8) 8月末まで
受託企業請求書による委託料の支払いを行った。
- (9) 9月末までインターンシップ報告会を各科で行った。

5. インターンシップ派遣前の取り組み

5.1 派遣前オリエンテーション

各科で下記の「企業委託実習受講に当たって」を配布し、説明を行った。

- ① インターンシップの目的の明確化、意欲の喚起、動機づけ
- ② 企業委託実習の単位と時間
- ③ 安全作業（機械、器具、設備）の指導
- ④ 企業委託実習の心得
 - ・あいさつ、言葉使い、ビジネスマナー
 - ・勤務時間
 - ・服装
 - ・機械、器具、設備の使用
 - ・その他
- ⑤ 実習日誌の記録
- ⑥ インターンシップ報告書

6. インターンシップの実施状況と巡回指導

6.1 インターンシップの実施状況

インターンシップ実施状況を次の表に示す。

	科名	在籍数	実施者数
1	制御技術科	27	27
2	電子技術科	24	24
3	電気技術科	23	23
4	情報技術科	後期に実施予定	
5	住居環境科	26	26
6	物流情報科	17	17
7	ホテルビジネス科	24	24
8	生産機械システム技術科	27	24
9	生産情報システム技術科	10	10
	合計	178	175

※生産機械システム技術科の3名は後期に実施予定

6.2 インターンシップ中の巡回指導

委託先全企業を対象に、インターンシップ期間中に各科の教員で巡回指導を実施した。この巡回指導により、インターンシップ中の学生状況の把握し、また、安全作業のお願いと受託へのお礼を行った。

巡回中に撮影した写真を下記に示す。



インターンシップ中の住居環境科学生



インターンシップ中の電子技術科学生

6.3 インターンシップ実施後の報告会

各科ごとに、次の目的のため1年生・2年生を集め報告会を行った。

- (1) 2年生はインターンシップのまとめを発表させた。
- (2) 1年生にはインターンシップ体験談を聞き、来年度のインターンシップへの心構えを得させた。インターンシップ体験の報告会の様子を次の写真に示す。



インターンシップ報告会（物流情報科）

7. インターンシップと就職

7.1 インターンシップ先への就職数

インターンシップ先への就職状況を下記に示す。

年度	修了数	就職数	インターンシップ先就職
平成15年度	208	130	17
平成16年度	210	32	4（内定）

- (1) 現在のところ、インターンシップ先への就職数はまだ少ないが、今後は増えるものと思われる。
- (2) インターンシップ受託企業から学生採用の求人がきても、指名された学生がその企業に就職を希望しないこともある。

8. インターンシップの学生・企業アンケート

8.1 学生へのアンケート結果

調査対象学生数	178名
回収（回答）学生数	175名
回答率	98%

図1 インターシップの体験はどうでしたか。

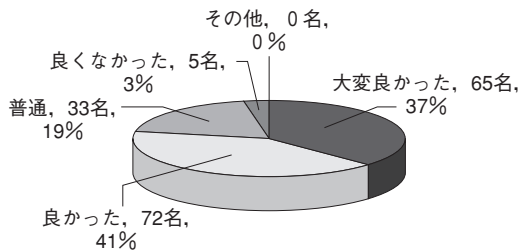


図2 インターシップの期間は何日間でしたか。

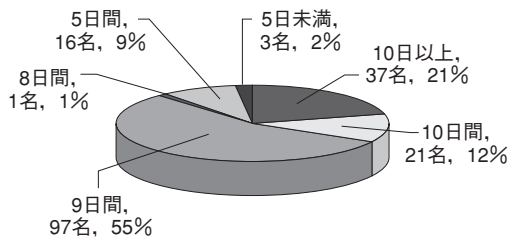


図3 インターシップの期間について

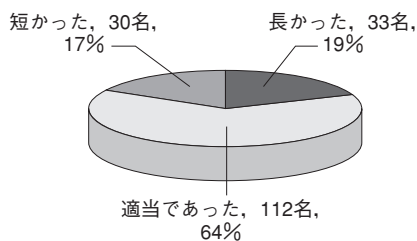


図4 インターシップの時期について

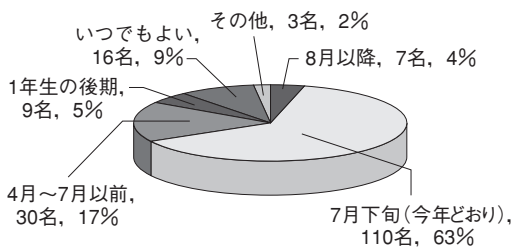


図5 インターシップで学んだことは(複数回答)

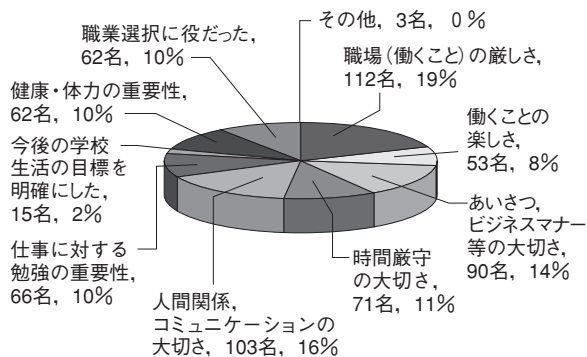
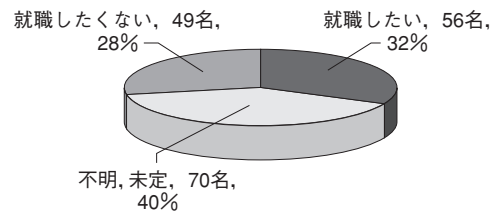


図6 インターシップ先企業への就職について



8.2 企業へのアンケート

調査企業数	98社
回収(回答)企業数	65社
回答率	66%

図7 インターシップの引き受け期間について

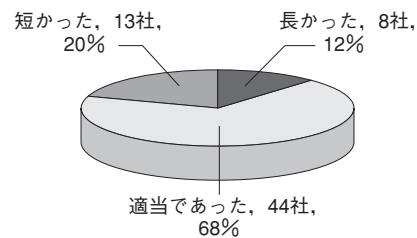


図8 インターシップの引き受け時期について

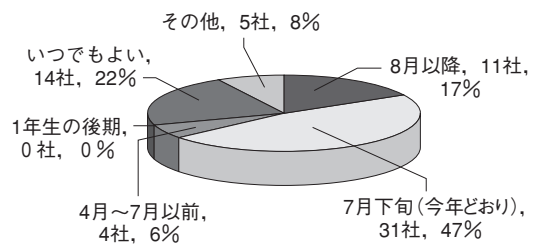


図9 インターシップを引き受けて苦慮されたことは(複数回答)

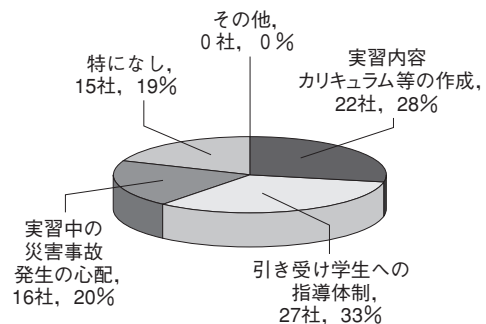


図10 インターンシップを引き受けて良かったですか。

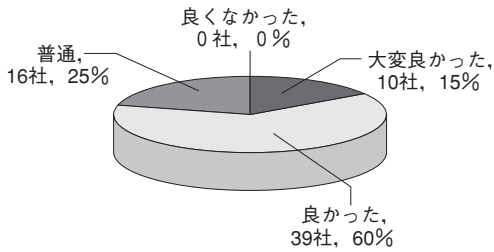


図11 引き受けて、貴社にどんなメリットがありましたか。(複数回答)

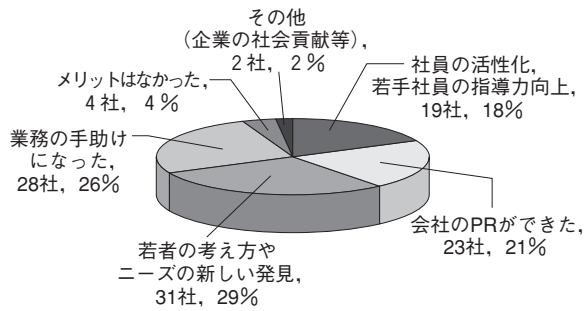


図12 引き受けて、貴社にデメリットはありましたか。(複数回答)

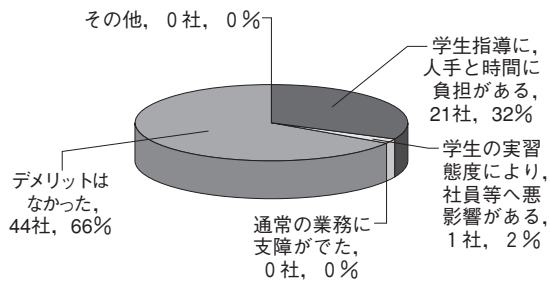


図13 引き受けた学生のあいさつ、服装、態度等について

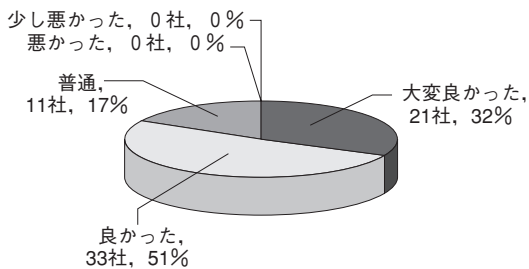


図14 インターンシップを引き受けた学生の採用について

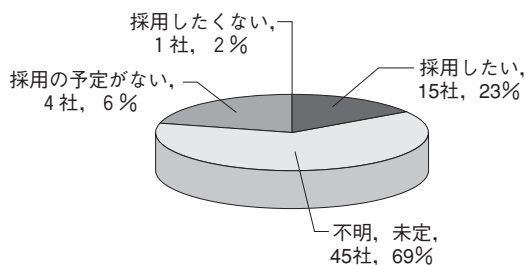


図15 インターンシップの契約書の締結について

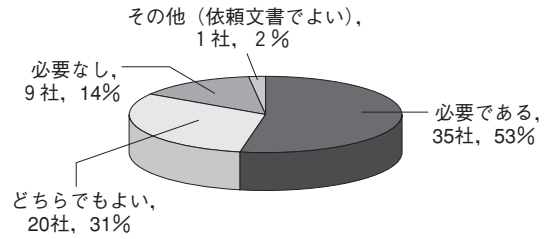


図16 インターンシップの委託料について

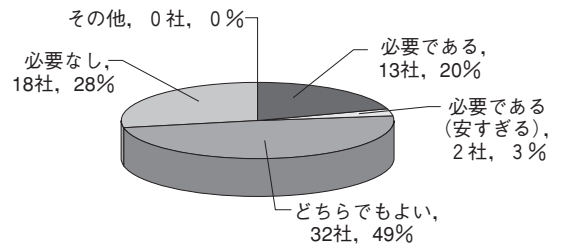
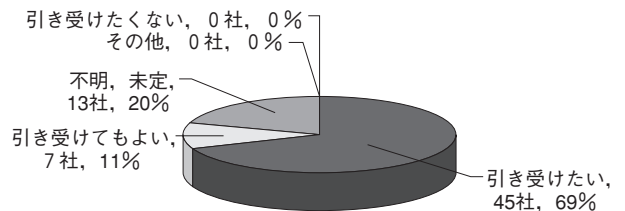


図17 来年もインターンシップを引き受けますか。



8.3 アンケート集計の概要

- (1) インターンシップ体験は良かったと多くの学生が回答しており、貴重な体験を得ている。
- (2) インターンシップの期間は、学生および受け入れ企業ともに、約9日~10日間で適当であると回答している。
- (3) インターンシップの実施時期は、学生及び受け入れ企業ともに、夏休み頃の7月下旬が適当と回答している。しかし、早期に就職意欲を喚起するため、1年生の後期に実施したほうがよいとの意見も学内にはある。
- (4) 学生がインターンシップ体験で学んだことは、職場の厳しさ、コミュニケーションの大切さ、あいさつ・ビジネスマナーの大切さが上位を占めている。また、62名が職業選択に役だったと回答していることから、就職意欲の高揚にも役だっていると考えられる。

- (5) 企業がインターンシップ受け入れで苦慮しているのは、体験実習カリキュラムの作成、社員による学生への指導体制、災害発生の心配等である。
- (6) 引き受け企業の75%がインターンシップ受け入れを良かったと回答している。その企業側メリットについて、若者の考えやニーズを知ったこと、業務の手助けになったこと、会社のPRになったこと、および社員の活性化になったこと等を回答している。また、デメリットとして、受け入れ学生の指導に人手と時間に負担があると回答している。しかし、全体的には企業にとってもインターンシップ受け入れは有意義だと応えている。
- (7) 受け入れ企業から、インターンシップ受け入れ学生のあいさつ、態度、服装等について、良かった等の回答が83%占めている。このことは、本校学生の評判が良いことを示している。
- (8) 学生のインターンシップ先企業への就職希望について、就職したいが56名(32%)、就職したくないが49名(28%)である。
- また、企業がインターンシップ受け入れ学生の採用について、採用したいが15社(23%)、採用したくないが1社(2%)である。
- これらのことより、インターンシップが学生の就職および企業の採用にとって有意義な企画だといえる。
- (9) 契約書について、必要なしが9社(14%)、必要であるが35社(53%)であり、多くの企業が契約書締結を望んでいる。しかし、その契約書の文面が不評であり、見直しの要望もある。
- (10) 委託料について、必要なしが18社(28%)、必要であるが15社(23%)である。沖縄県の企業で、インターンシップ受け入れに伴う委託料等をとっている企業はないと聞いている。この件に関しては今後の検討課題である。
- (11) 来年度のインターンシップ引き受けについて、引き受けたくない企業が0社、引き受けたい等が52社(80%)であり、インターンシップが県内企業に理解されていると考えられる。

9. おわりに

インターンシップ依頼先の企業訪問や巡回指導等により、企業情報の収集と本校のPRを行った。このことは、今後の就職開拓やセミナー受講者の拡大に役だつものと考えられる。また、学生がインターンシップを体験することにより、企業が求める人材要件を認識し、日ごろの教育訓練内容を再認識するとともに、卒業までの学習意欲を喚起することができた。同時に職業観の育成、就職意識の高揚、就職意欲の喚起等により、本校の目標とする就職率のアップに繋がるものと考えている。

昨年度、本部指示により開始したインターンシップは、今年度で2回目となり、無事終了することができた。これらの経験を通して、各科の専門性に合致した委託先の開拓、実施時期の問題、複数科が希望している企業への学生配置、安全作業の徹底等について解決しなければならない課題が残っている。

昨今のインターンシップブームの中、来年は県内の全高校がインターンシップに取り組むとのことである。したがって、効果あるインターンシップを実施するため、本校において、早期に実施計画をたてて取り組む必要がある。

インターンシップの取り組みの報告を記述にしているが、これらの内容が皆さまの参考になれば幸いである。最後に、本稿をまとめるに当たってアンケート調査にご協力くださったインターンシップ受け入れ企業等に、感謝の意を表します。

